



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

TEL 0993-52-1359

南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-22-6422

## 新たに認定された農業経営士のご紹介

令和6年2月2日(金)サンロイヤルホテルにて行われた鹿児島県農業士認定交付式において、南薩管内では新たに青年農業士4名、指導農業士2名、女性農業士1名が認定されました。南薩地域農業のこれからを牽引される方々のご活躍に期待を込めて、新規認定された各農業士をご紹介します。



### 【指導農業士】

楠 政明 (クスキ マサアキ) 氏, 枕崎市, 花き

田中 喜巳 (タナカ ヨシミ) 氏, 指宿市, 観葉植物

### 【女性農業士】

白澤 千恵子 (シラサワ チエコ) 氏, 枕崎市, 甘藷

### 【青年農業士】

小宮 福太郎 (コミヤ フクタロウ) 氏, 南さつま市, 根深ネギ

福元 雅岳 (フクモト マサタカ) 氏, 南さつま市, 有機野菜

高吉 英明 (タカヨシ ヒデアキ) 氏, 南九州市, 茶

迫田 竜一郎 (サコダ リュウイチロウ) 氏, 指宿市, 果樹

# 石灰窒素施用と土壤反転による茶収量品質

## 1 はじめに

茶業経営は、荒茶単価の低迷等により所得確保が難しい状況にあります。

そこで、収益向上を目的に、農業開発総合センターで開発された「石灰窒素施用と土壤反転作業の組合せによる茶省力肥培管理技術」を、令和3～5年に(農)菊永茶生産組合で実証しましたので、一番茶の結果について紹介します。

## 2 新技術の概要

### (1) 石灰窒素施用について

石灰窒素は、施用後、主成分シアナミドから尿素、アンモニア態窒素に変化し、一部はジシアンジアミドとなり硝酸化を抑制する肥料です。土壌中の有機物を分解させ、無機態窒素が増加します。さらに、石灰分が土壌pHを矯正し、土壌の肥料保持力を高め、根の伸長を促進します。

### (2) 土壤反転機について

土壤反転機は、乗用型管理機のアタッチメントとして、クランク式深耕機に用いられる「テコ鋤」を左右に装着したもので、うね間土壌を深さ23cmまで鋤き込む機械です。秋肥散布直後の9月に実施します。断根が少なく多量の整せん枝残渣が発生する更新年でも活用可能です。通気性を良好にし、有機物分解を促進します。作業時間は、24分/10aで省力的です。



## 3 実証方法及び結果

### (1) 実証方法

- ①品種及び面積:「さえみどり」 45a
- ②区の概要

実証区と対照区を設置し、石灰窒素は両区とも施肥し、土壤反転は実証区のみ毎年実施した。令和2年と4年の二番茶摘採後、茶樹の深刈り更新を実施しました。

	石灰窒素施用	土壤反転処理
実証区	○	○
対照区	○	×

### (3) 実証内容

- ①処理後1年目の収量品質(令和3年結果)
- ②2年連続, 3年連続土壤反転処理による収量品質(令和4, 5年結果)

### (4) 結果

#### ①処理後1年目は収量品質が向上

処理後1年目の令和3年一番茶の生葉収量は、土壤反転を実施した実証区が、対照区に比べ5%の増収の551kg/10aでした。また、荒茶品質の指標である全窒素は、実証区が対照区に比べ0.4%高い6.9%でした。以上のことから、土壤反転処理後1年目は、収量品質が向上しました(図1)。施肥効率を高め、収益向上につながります。



#### ②土壤反転連年処理は減収に注意(2, 3年目)

断根による影響が懸念されるため、連年処理による収量品質を検討しました。

土壤反転処理を連年実施した実証区の一発茶生葉収量は、対照区に比べ、2年連続処理で8%, 3年連続処理で5%減収しました(図2)。大きな減収ではないですが、連年処理は減収に注意が必要です。

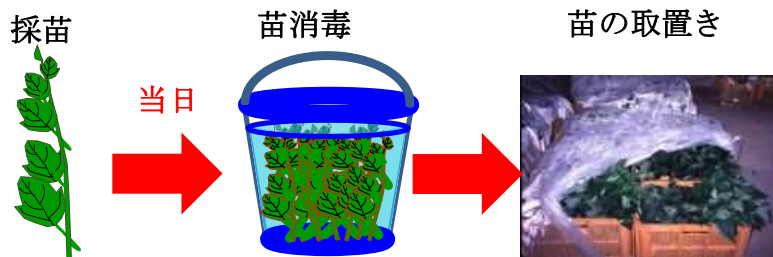
荒茶の全窒素は、土壤反転処理を連年実施した実証区が、対照区に比べ、2年連続処理が0.3%低く、3年連続処理は0.1%高くなり、土壤反転が品質に及ぼす影響は見られませんでした(図2)。一方で、3年連続処理の実証区の生葉は手触りが柔らかく、荒茶は対照区に比べ白茎の少ない良質でした。土壌中のアンモニア態窒素は、土壤反転処理の実証区がやや高く推移しました(データ省略)。





# サツマイモ基腐病対策のポイント 植付前～植付後

## 【苗準備】 必ず苗を消毒しましょう！



※ 苗を薬液に30分漬ける

- ・採苗は地際から5cm以上離れた位置で採苗し、苗消毒を行う。
- ・採苗で使用するハサミはこまめに消毒する。
- ・消毒液は使用日ごとに毎回調製する。

農薬の名称	対象病虫害	希釈倍数	使用時期
ベンレート水和剤	基腐病, つる割病, 黒斑病	500～1,000倍	植付前
ベンレートT20水和剤	基腐病, つる割病	200倍	植付前

## 【ほ場準備】 ほ場排水性の改善

- ・ほ場は明きよの設置や、枕畝の除去、枕畝を切るなどを行い、ほ場外への排水を促す。
- ・ほ場外の排水路のつまりがないか確認する。



明きよの設置, 枕畝の除去



枕畝を切る

## 異常株の除去やほ場での薬剤防除

- ・定期巡回により葉の黄変やしおれ症状を示す株を早期に見つけ、株ごと抜き取って、ほ場外へ持ち出す。

### 【薬剤防除の散布例】

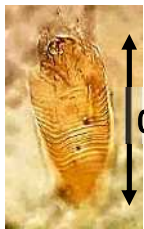
	植付前		植付後		
	畝立て前	苗消毒	1回目	2回目	3回目
例1	フリントアブル25の全面散布 土壌混和	ベンレート水和剤	植付から21日後 フロンサイドSC	植付から35日後 フロンサイドSC	植付から65日後 トリフィン水和剤
例2	フロンサイドSCの全面散布 土壌混和	ベンレート水和剤	植付から21日後 フロンサイドSC	植付から35日後 フロンサイドSC	植付から65日後 アミスター20アブル

# カンキツにおけるリュウキュウミカンサビダニ対策

リュウキュウミカンサビダニは、体長0.16mmほどの微小なダニです。葉や果実の吸汁被害により果皮が黒変し、外観品質が低下します。秋期以降も発生と加害が続くほか、管内でもたんかんなどの中晩柑、近年では温州みかん、きんかんなどカンキツ全般で発生・被害が増加しており、防除対策の徹底が急務となっています。

管内における発生状況の実態を調査したところ、調査ほ場では5月上旬頃から発生が確認され、梅雨明け以降に増加、また秋期以降も急激に増加し、年間発生が確認されました。

肉眼では確認しづらく発見しにくいですが、被害がみられてからの防除は手遅れになります。



0.16 mm



リュウキュウミカンサビダニ 被害果実 たんかん(10月)

過去に上記(に似た)被害がみられた園は、特に防除の徹底が重要です。

	R4年 調査ほ場の発生虫数(頭)	防除ポイント(発生の特徴)	R6年産除暦(例 たんかん)
4月	0	①気温上昇に伴い越冬虫が発生	イオウフロアブル
5月	36		
6月	60	②梅雨明け後に増加	サンマイル水和剤
7月	717		
8月	8,721	③薬剤散布遅れと散布ムラで急激増加	ファインセーフフロアブル メビウスフロアブル
9月	1,016		
10月	17,249	④薬剤散布ムラで急激増加。高密度虫数は抑制難	ダニゲッターフロアブル (発生に応じて対応)
11月	65,713		

## 【防除のポイント】

- 適期に効果のある薬剤散布で密度低下  
生育初期(5月)、梅雨明け以降、及び夏場の密度が高まる前の散布
- 散布効果をあげる樹形づくり  
樹高をさげる、樹内部・混み合ったところの重なり枝の間引き・除去など
- 薬剤散布は十分量をむらなく丁寧に散布！  
防除についての詳細は、JAまたは農政普及課果樹担当までお問い合わせください。

# 肉用牛短期肥育マニュアルの活用で効率化を！

令和2年度に県で策定された「酪農肉用牛近代化計画」において、肉用牛肥育経営の競争力を強化するためには、肉質等の優れた特性を維持しつつ、肥育期間の短縮などにより飼料費の抑制や生産性の向上を図る必要性があるとしています。

ここでは、県畜産試験場で開発された「短期肥育マニュアル」の主だったポイントと経済効果についてお知らせします。

## 出荷月齢の早期化による効果

現状の約20ヶ月間の肥育期間を5ヶ月短縮し、生後24ヶ月齢で、通常出荷牛と同等の「枝肉重量」「肉質」で出荷した場合の試算。



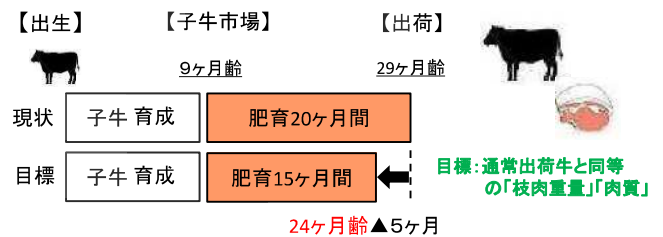
肥育期間の短縮は回転率を向上させることから、飼養規模100頭当たりで試算すると、年間出荷頭数が**20頭増加**します。また、肥育牛1頭当たりの固定費を**約4.1万円**圧縮することが可能となります。

## ＜ポイント＞

○給与飼料中の**CP含量(粗蛋白質)**を高い値に設定することで、肥育前期の粗飼料摂取量を高めています。

○「子牛育成マニュアル」に沿って飼養された子牛では本マニュアルをスムーズに利用できることが確認されています。

## ○出荷月齢早期化のイメージと効果



【効果】

①出荷頭数の増加(100頭規模)+20頭

肥育期間:20ヶ月 【100頭×12か月÷20ヶ月】=60頭  
 肥育期間:15ヶ月 【100頭×12か月÷15ヶ月】=80頭

②固定費の圧縮 ▲4.1万円/頭

15ヶ月 20ヶ月  
 16.3万×15/20=12.2万 ▲4.1万円  
 16.3万円